

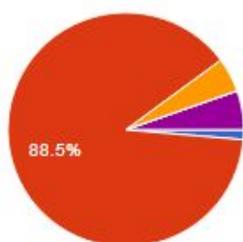
「業務改善活動報告会」実施に伴うアンケート集計結果

対 象 者 : 業務改善活動報告会について参加照会いただいた全職員(参加者・不参加者 不問)
 アンケート方法 : Google フォームに対象者個々が入力回答
 アンケート期間 : 平成27年12月15日(火)から平成27年12月28日(月)

「業務改善活動報告会」—平成27年12月15日(火)開催—

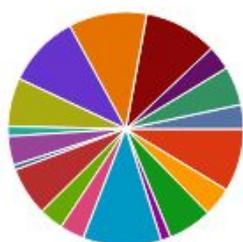
1. 表彰部署による取組内容報告
 - ①財務部経理調達課の取組
 - ・教職員向け支払通知書の電子化
 - ②附属図書館の取組
 - ・受付カウンター, 電話等における外国語の一次対応マニュアルの作成
 - ③理学部の取組
 - ・学生提出書類の簡素化
2. 平成26年度業務改善活動における他部署に紹介したい取組として, 事務組織・業務改善見直しプロジェクトチームから事例報告
 - ①ワークライフバランス 【財務部, 教育学部, 経済学部, 医学部, 工学部】
 - ②Google Apps 操作方法勉強会の開催 【経営企画部経営企画課】
 - ③財務部オフィス改革検討会(PCスキルアップ班) 【財務部】
 - ④コミュニケーションの推進 【財務部及び入試課】
 - ⑤スペシャリストになるための専門知識, スキルを自発的に習得できる自己啓発支援 【学務部学生支援課】
 - ⑥担当の枠を超えた業務改善のための情報共有の推進 【学務部入試課】
 - ⑦年度末に集中している業務の分散化による時間外勤務の抑制 【医学部附属病院総務課】

職種を教えてください



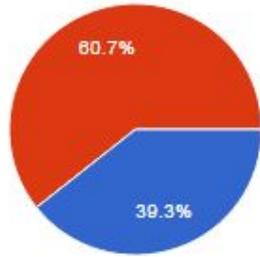
教員	2	1.4%
職員	131	88.5%
技術職員	7	4.7%
コメディカル	0	0%
その他	8	5.4%

主に業務をされている部局を教えてください。



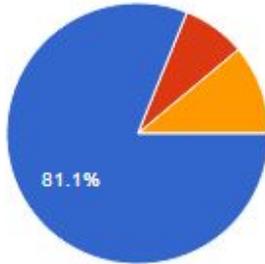
人文学部(人文科学研究科)	0	0%
教育学部(教育学研究科)	13	8.7%
経済学部(経済・社会政策科学研究科)	6	4%
理学部(理工学系研究科, 総合工学系研究科)	9	6%
医学部(医学系研究科)	2	1.3%
医学部附属病院	16	10.7%
工学部(理工学系研究科, 総合工学系研究科)	5	3.4%
農学部(農学研究科, 総合工学系研究科)	5	3.4%
繊維学部(理工学系研究科, 総合工学系研究科)	10	6.7%
全学教育機構	1	0.7%
附属図書館	6	4%
内部監査室	2	1.3%
経営企画部	10	6.7%
総務部	15	10.1%
財務部	16	10.7%
学務部	15	10.1%
研究推進部	5	3.4%
環境施設部	8	5.4%
その他	5	3.4%

設問1 参加しましたか。



参加した。→設問3以降へ	59	39.3%
参加しなかった。→設問2, 設問8へ	91	60.7%

設問2 参加しなかった理由を教えてください。



外せない業務等があったため	73	81.1%
興味がなかったため	7	7.8%
その他	10	11.1%

【その他の理由】

- ・業務改善について詳細の説明を受けなかったこと(席を空けていた)。この会は「若手の方達の参加を」という言葉からそれに当たらないと感じ参加しませんでした。今年の中頃に詳細を聞きましたが、途中参加はしにくかったから。
- ・留守番。
- ・出張。
- ・現在の業務改善活動メンバーの方針に反対のため。
- ・上司に参加したい旨を言い出しにくい。周囲から、暇だと思われそう。
- ・休暇をとったため。
- ・出席するようにという指示がなかった為。
- ・忘れていた。
- ・休暇をいただいたため。
- ・参加しても共通の課題が見いだせなかった。

設問3 興味を持った報告を教えてください。



【財務部】教職員向け支払通知書の電子化	27	41.5%
【図書館】受付カウンター、電話等における外国語の一次対応マニュアルの作成	44	67.7%
【理学部】学生提出書類の簡素化	30	46.2%

設問4 設問3で選択した理由を教えてください。

【財務部】教職員向け支払通知書の電子化

- ・GOOD!
- ・具体的な数字で削減量が示されていたので、削減されたことがよくわかった。
- ・他にも様々な書類が電子化でき、ペーパーレス化につながったと思った。
- ・自身の業務にも生かせそうな取組みで参考になった。
- ・業者の振込の問い合わせにも将来的に対応可能な事案で可能性が深い。
- ・紙ベースのものを電子化するというのは、どの部局でもどの業務でも業務改善として完成した時に大きな成果があるものなのでどのようなスケジュールで進めたのか興味がありました。
- ・業務の見直しにより、実際の経費節減とともに担当者の心的・実務的負担が大きく軽減されたことがすばらしいと思う。
- ・自分自身が今まで無駄だと思っていたことに、取り組んでくれたため。
- ・効果が確実かつ継続的に期待できる。日常業務に工夫したようなものではなく、画期的な取組である。
- ・電子化はコストダウンが数値にそのまま反映され、目に見える改善効果がでていた。また、職員の負担軽減も大きく素晴らしい改善事例でした。
- ・メールを含む情報基盤を整備してきた部局として関係があったため。
- ・業務の効率化ができていたため。

- ・業務効率、サービスの問題解消に加えて、経費節減も達成している優れた取り組みだと思った。
- ・業務改善の意識を持ち、前向きに、積極的に改革を行った結果だと思います。
- ・電子化により業務量だけでなく資源、費用もかなり削減でき、非常に効果的な取組だと思ったため。
- ・改善結果が非常に明確に出ている。
- ・自分の業務でも電子化で省略化が期待できるものがあるため。
- ・教職員向け支払通知書の電子化は、業務の効率化、経済的改善、サービスの向上と多くの利益を生み出した取組だと思ったため。
- ・業務負担・費用の削減と、サービスの向上を実現した取組みだから。
- ・実際に支払通知書の作成・仕訳業務をしているので、改めて業務改善に至る過程と業務が軽減されたことを実感できたのでよかったです。ハガキから支払通知書メール化に至る過程も、常田主査がITのスペシャリストだったのでスムーズに行うことができました。
- ・業務を大幅削減、教職員への画期的なサービス向上。
- ・大掛かりかつ根本的な改革であり、業務を行う担当者にとっても、通知を受け取る利用者（教職員）にとっても有益な内容であったから
- ・実際、メールで受け取りました。ハガキよりも履歴もわかりとていいです。
- ・ペーパーレスの節減だけでなく、業務の簡素化にも大いに役立っていると感じました。

【図書館】受付カウンター、電話等における外国語の一次対応マニュアルの作成

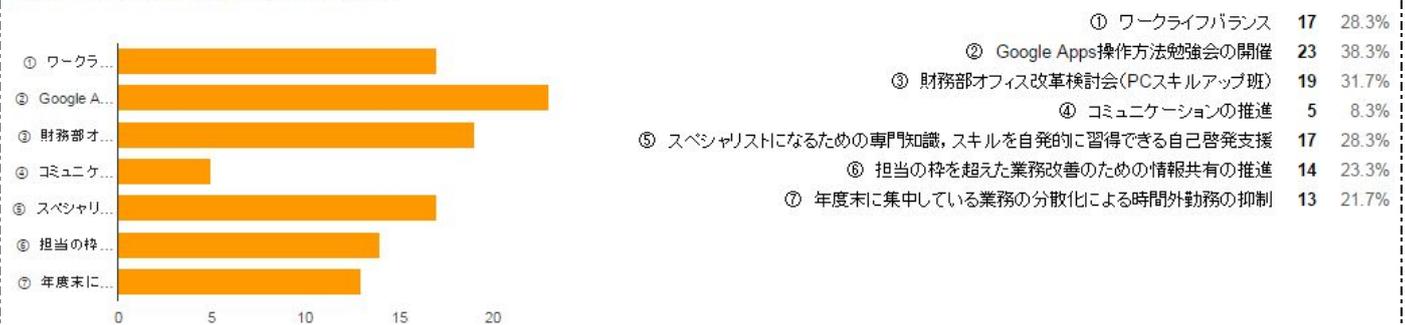
- ・とても有用な取組だと思った。
- ・非常勤職員の方が中心になって、留学生などが協力している点。
- ・大学全体の取組になると良いと感じました。
- ・外国語での問い合わせは、どこの部署でもあることなので、大学として取り組んで行くべき課題。
- ・先日行われた「大学職員の集い In Shinshu」にて横浜国立大学が作成している外国語会話集がよく出来ていて、現物を見て欲しいと思っていました。信大でもそのような外国語対応マニュアルが出来たことに興味をもったとともに、ぜひ今後も2次対応マニュアルや全学での英会話集ができれば良いと感じたから。
- ・それぞれ業務に応用がきき、また展開が期待できる事案である。
- ・今回は外国語での一次対応ということでしたが、窓口対応は対応する人の印象によって相手の満足度や業務としての効率が変わってくるので、組織として最低限の対応スキルはとても大事で、そのマニュアルは必要だと思います。言うのは簡単でも実際にマニュアル作成に取り組んだ事例はとても興味がありました。
- ・自分の業務にも応用可能だと思ったので。
- ・マニュアルがあることにより対応に統一化が図られ、サービス向上につながっているところに、標準化の効果がでていていると思った。
- ・自部局の窓口業務に関連して、留学生対応について今後の参考になるため。
- ・外国語が苦手な人でも対応できるシンプルな対応マニュアルを作成された点。
- ・外国語での対応は、外国語の苦手な日本人に延々と付きまとう課題だと思うため。個人の努力や能力に任せず、誰でも対応にとりかかれることを目標としたところがとても良いと思いました。
- ・各部局・部署でも同様のマニュアルがあると良いと思いました。
- ・サービス向上とともに、職員の不安も取り除けたと思うため。
- ・外国語対応という高いハードルに対して臆することなく、実現が比較的可能なところから着実に対応していることがよいと思いました。
- ・大学環境のグローバル化に対応した取り組みで、今後さらに必要性が求められることだから。
- ・業務改善の意識を持ち、前向きに、積極的に改革を行った結果だと思います。
- ・職員でも外国人の方が増えてきているので、英語版のマニュアルの作成が必要と感じているため。
- ・英語が求められるシチュエーションでの対応は、英会話ができる特定の職員へ業務を頼るばかりでした。英会話ができない者でもマニュアルがあれば、「自分で対応してみよう」という気持ちにもなれるし、やる気のある職員であれば一次対応を身に着けた上で更に自身の能力向上に取組むきっかけにもなるのではないかと思います。業務改善であるとともに、業務に携わる職員がより前向きな気持で取組むことが可能となる仕事のやり方であり、素晴らしいと思いました。
- ・図書館ほど使用頻度は少ないが、外国語対応マニュアルの必要性を感じたため。
- ・今後大学のグローバル化が進むにあたり、基本的かつ重要な取組だと思ったため。
- ・国際化に向けての重要な取り組みの一つ。
- ・グローバル化が進みどの部局でも外国人の教職員や学生が増加する中、外国語での対応には苦慮しており、今回の取り組みはそのとりかかりとして興味ある内容だった。
- ・いろいろな部署で活用できそうだったため。
- ・受付カウンター、電話等における外国語の一時対応マニュアルの作成は、指差しで対応できる点が別の窓口業務でも取り入れられると思ったため。
- ・受付で想定される会話に特化してまとめられており無駄が無い。
- ・外国語への対応の必要性を感じているため。
- ・大学運営を円滑に行う上で、とてもよい業務改善だと思いました。誰もが使用できるマニュアルの作成や提出書類の見直しなど、自分の業務でできることがないか考えるよい機会をいただきました。
- ・自部署においても、外国人留学生や入学志願者（主に大学院入学志願者）等外国人の対応に苦慮しているため。
- ・支援室との連携や、外国語での対応は、業務上で課題になっているから。
- ・自分も外国語での問い合わせの対応に困った経験があるため、汎用性の高い取り組みだと思う。ただ、これは対応可能な職員に繋ぐまでの第一次対応ということで、「対応可能な職員」が全学にどれくらいいるのかという点が気になった。
- ・業務に活用できる内容だったため。

- ・他部局でも修正資料が可能なマニュアル作成。
- ・個々のスキルアップを図り全員が対応可能な体制を作るより、誰が対応しても、失礼ない対応ができるマニュアルを作成したことはとてもよいと思います。
- ・図書館にとどまらず、窓口業務において広く活用できる取り組みであったため。

【理学部】学生提出書類の簡素化

- ・意思疎通の大切さ。以前から調査が重複していることに学科事務の方は気付いていたとのことだったが、WTができるまでそれが学部内の各部署に伝わらなかったのかという点。
- ・自分の業務の中でも、何か簡素化できるものはないかと考えてみるきっかけとなった。
- ・技術職員や研究室事務の方と一緒に取組んでいる点。幅広い職種が係ることで今まで見えなかった改善点が見えると思うので。
- ・業務改善の組織により、横のつながりができ、それがいい成果を産んでいると感じました。
- ・自身の業務にも生かせそうな取組みで参考になった。
- ・図書館と同様に相手があってこそその業務となると、自分達主導ではなく相手主導の目線が必要だと思います。そこに気づけたこと、3つの組織（部局）が同じベクトルで様式を統一出来たということがすごいなと思いました。
- ・学生の不便軽減を実現するために学部全体で取組んだこと、特に学生の不便感を知っていた学科事務の方の声をしっかり受け止めて改善に取り組んだことは、他部署の手本になると思う。
- ・関係各所の調整をうまくこなした点。他の学部や、類似の手続きに応用できそうな点。以上を評価したため。
- ・活動を通じてより仕事がしやすい環境になったところに、とても魅力を感じました。
- ・自部局の業務も教職協働を実践しているため。また、業務削減が利用者側の立場に立った改善であり、共感が持てるため。
- ・データの統一ということは、データの使い回しと言う事になります。不必要な情報も他の人の目に触れることになりまますので、個人情報保護の立場から検討されているでしょうか？その点からの発言は無かったように記憶しています。
- ・教職員や学生を対象に書類の提出を依頼する場合、提出率を良くするためには、わかりやすく記入しやすい書式になっていることが必要だと思います。
- ・改善した書類そのものよりも、改善メンバーとして多様な方が取組んでいるのが素晴らしいと思いました。
- ・学生の視点に立った改善だったため。
- ・業務改善の意識を持ち、前向きに、積極的に改革を行った結果だと思います。
- ・ワーキングチームの参加者が、常勤の職員に限らず非常勤職員や技術職員など多様な業種のメンバーとなっている点が興味を湧いた。
- ・ワーキングチームを通じて職場の雰囲気が良くなるのは、何よりも良いことだと思うため。提出書類の簡素化だけでなく、学生に分かりやすいレイアウトに修正した事も、学生の視点に立った良い取組だと思ったため。
- ・学生に対して、様々な部署等から提出依頼を行っていた様式を統一したことにより、利便性が向上できた点。これの発展系として学務システムの、学部、学科、コース等によって入力形態や出力様式が異なっている部分を可能な限り共通化できないか。
- ・簡素化された書類を知りたかった。
- ・どこの部局でもあり得そうな問題と思えたから。
- ・大学運営を円滑に行う上で、とてもよい業務改善だと思いました。誰もが使用できるマニュアルの作成や提出書類の見直しなど、自分の業務でできることがないか考えるよい機会をいただきました。
- ・支援室との連携や、外国語での対応は、業務上で課題になっているから。
- ・事務部7割以上の職員が業務改善検討チームメンバーとなり活発に業務改善提案。
- ・日頃行っている業務と密接に関わりがある報告であったため。

設問5 興味を持った取組を教えてください。



設問6 設問5で選択した理由を教えてください。

①ワークライフバランス

- ・工学部でおこなっている輪番制でのノー残業デーの通知方法は超勤削減とコミュニケーションの円滑化と2つの効果があり、是非、取り入れたいと感じました。
- ・ノー残業デーを週に数日設けることにより、生活リズムが改善され、体調の維持が図れるとともに、仕事に対するスキルアップを図る等、意欲的になれるのではないかと思います。
- ・老親介護など、将来にわたり真剣に取り組むべき社会課題があるので、それへの対応という面でも大切な取り組みだと思います。

- ・時間外勤務を削減、平準化し、仕事と家庭の両立ができるよう、さらに踏み込んだ形で改善を行う必要があると感じている。
- ・勤務時間の ON・OFF についての取り組みを知りたかった。
- ・仕事以外の時間を有効に過ごすことは働く活力になると思うので、時間外勤務を減らすことや休暇取得の向上をもっと進めるべきである。
- ・医学部の目標と一致している。
- ・色々な学部が取組が紹介されたため。
- ・自部署においても、WLB を踏まえた時間外勤務の抑制には苦慮しているところである。
- ・全職員に関係する事項なので関心を持った。以前人事課が超過勤務削減の取り組みを始めた頃には、ノー残業デーを水曜日に限定せず、徐々に拡大していく方針だったような気がするが、最近は余り言わなくなっているような？
- ・ちょっとした工夫による早期帰宅の意識向上。

②Google Apps 操作方法勉強会の開催

- ・Google Apps に移行してから、操作方法や活用方法に関する研修等が行われていないので、是非、大学として開催してほしい。今は、分かる人に聞くしか方法がないので、お互いの業務に支障をきたす。
- ・PC が詳しい者に業務が偏ることは実感しているので、非常に良い取り組みだと思いました。
- ・コミュニケーションツールの標準的利用研修の普及は、業務推進のための原動力となるので、このような取組は有効であると考えられるから。
- ・単にお金をかけて外部講師を招いての研修会を開くのではなく、実際の操作方法を知っている職員が、未熟な職員への講師となって教えあう、という点が【自助努力の業務改善】という感じでいいと思う。
- ・自分にも必要だと思ったから。
- ・今後、自部局が協力・支援していく必要がある事例であるため。
- ・私も良くわからず使っています。
- ・日頃の業務でパソコンのスキルアップが必要と感じているため。
- ・パソコンスキル等、仕事をする上で必ず必要となる知識は、業務速度にかなり影響が出るため。
- ・業務を行うに当たり必要なスキルであり、本来、開催されるべき会。
- ・Google Apps は便利なツールであるがその使い方が徹底されておらず、ファイルを削除してしまうような事例も起きているので、勉強会の開催は必要であると感じた。
- ・操作方法是、どこの部局でも、苦労していることと思われたため。
- ・パソコン関係のスキルアップは、業務改善で必須だと考えるから。
- ・自分自身、業務をする中で操作方法を習得したいと思っているため。

③財務部オフィス改革検討会（PC スキルアップ班）

- ・PC スキルの高い人に業務が集中することの改善。PC スキルは事務職員に必須と思うが、これまで以上に高度なものが求められていて、個々人ではない対策が必要と考えられるので。
- ・PC が詳しい者に業務が偏ることは実感しているので、非常に良い取り組みだと思いました。
- ・単にお金をかけて外部講師を招いての研修会を開くのではなく、実際の操作方法を知っている職員が、未熟な職員への講師となって教えあう、という点が【自助努力の業務改善】という感じでいいと思う。
- ・今後、自部局が協力・支援していく必要がある事例であるため。
- ・業務に活かせる専門知識の習得は必要だと感じています。
- ・私の部署でも実施してほしいと思ったため。
- ・若手職員のプレゼン能力やモチベーションの向上にもつながっていると思いました。
- ・現在、PC を使える人が PC を使えない人に、その時々個別で教えているので参考になる。
- ・日頃の業務でパソコンのスキルアップが必要と感じているため。
- ・パソコンスキル等、仕事をする上で必ず必要となる知識は、業務速度にかなり影響が出るため。
- ・個々の業務効率があがると感じたため。
- ・業務を行うに当たり必要なスキルであり、本来、開催されるべき会。
- ・パソコン関係のスキルアップは、業務改善で必須だと考えるから。
- ・向上心に基づく PC 操作勉強会。さらに、内部講師が実施。

④コミュニケーションの推進

- ・仕事をする上では一番大事なことでないでしょうか。他の職種と一緒に勤務する職場においては、必要不可欠ではないでしょうか。
- ・顔の見える関係が重要だと日頃から感じているから。
- ・本部職員と部局職員の交流の機会は、業務の上で非常に重要な役割を果たすと考えているため。

⑤スペシャリストになるための専門知識、スキルを自発的に習得できる自己啓発支援

- ・資格取得は、その人のキャリアアップを図れるとともに、サービス向上に繋がるため。また組織からお金が支援・補助されるなら取得者も増えるのではと考えたため。
- ・現在の部局で自分には何ができるのか、何が強みなのかという存在意義を自分で感じられることはモチベーションを高めるといって大事なことだと思います。資格という明確なものがあることもいいと思いますし、職場がそれを支援してくれる（スキルを認めてくれる）というのは素晴らしいと思いました。
- ・自身の乏しい経験や限られた範囲の知識のみで業務を行おうとする職員が大半の中、勉強しようとする姿勢は見習うべきだと思う。
- ・今後、自部局が協力・支援していく必要がある事例であるため。

- ・職務資格取得制度の原案を作成し、職員自身の能力向上に有効であることを確認した点。
- ・自己啓発を支援していただけるのはありがたいと思います。
- ・業務に活かせる専門知識の習得は必要だと感じています。
- ・資格取得という面での取り組みは、有意義なことだと思いますし、新鮮でした。
- ・スキルの習得に関して興味があるから。
- ・報告会での説明では、具体的な内容まで理解が及びませんでした。職務遂行にどのような資格が関係し、役立てることができるのかがパッと見てわかるようなものがあれば、能力・意欲の向上に役立つのかなあ、と思いました。
- ・各部署で必要な専門スキルを身につける支援があると、意欲が高まると思うから。
- ・他の取り組みはグループ内ですで行っているレベルであったが、1つだけ明らかに異彩を放つ取り組みであったため。
- ・大学職員の全体レベルの底上げには、より専門性を深めて特化した能力を持つ人材育成が不可欠だと思います。

⑥担当の枠を超えた業務改善のための情報共有の推進

- ・繁忙期等が担当により違い、担当を越えた業務をすれば、それぞれ負担が軽減されるのでは。時間外勤務の縮減にもつながる。
- ・今後、自部署が協力・支援していく必要がある事例であるため。
- ・担当者以外の参加により、業務に対する新たな気づきが得られた点。
- ・人に仕事がついている状態は良くないので、各員でフォローできる体制があると良いと思います。
- ・理学部でも似たような取り組みを行っているから。

⑦年度末に集中している業務の分散化による時間外勤務の抑制

- ・こういう例はまだまだ発掘すればあるのだな、と思った。
- ・この問題は、会計系では毎年発生している問題。事務職員だけではなく、教員も巻き込み大学として、解決してほしい。予算の執行に対する意識改革が必要。
- ・担当職員の1年間の業務負担が平準化し、かつ、時間外勤務が抑制できた点。
- ・私の部署でも問題になることであるため。
- ・ピーク分散のための発想の転換というか、目の付け方が新鮮だと思います。
- ・自部署においても、WLBを踏まえた時間外勤務の抑制には苦慮しているところである。
- ・受診者の利便性も高まったため。

設問7 あなたの職場でも実施したいと思うような取組はありましたか。

- ・一層のペーパーレス化を推進することで、業務効率化を図ること。
- ・可能などころから電子化、自動化。
- ・自部署向けにアレンジした、外国語対応マニュアル。
- ・外国語一時対応マニュアルの作成。
- ・外国語の一時対応マニュアルの作成。Google Apps 操作方法勉強会の開催。
- ・【理学部】学生提出書類の簡素化に関しては自ら取り組みたいというより、全学部に取り組んで欲しい。
- ・繊維学部でも業務改善のチームが今までできなかった内容を改善しました。今後も、チームを作り、改善に取り組むことで、大きな改善につながると 생각합니다。
- ・業務改善検討チームメンバーの拡大。
- ・工学部でおこなっている輪番制でのノー残業デーの通知方法は超勤削減とコミュニケーションの円滑化と2つの効果があり、是非、取り入れたいと感じました。
- ・ノー残業ディを増やす事。
- ・ワークライフバランス。PCスキルアップ等の勉強会。
- ・Google Apps の活用法については、部署を超えて色々と共有してほしい。
- ・Google Apps 操作方法勉強会の開催。
- ・PCスキルの向上・平準化ができれば良いと思うので、ノウハウについて伺ってみたい。業務に役立つ資格の提示、取得支援があればぜひ参加したい。
- ・財務部が実施したように職場のPCスキルの平均化。情報管理の仕方やPCやネットワークトラブル時の基本対応を加えて取り組んでみたい。
- ・PCスキルアップ勉強会。
- ・担当の枠を超えた業務改善。
- ・業務の平準化・省力化をしながらサービス向上に繋がるアイデアを、職員ほか教員または学生をも巻き込み考えだすことで、時間外勤務を縮減すること。→マニュアル整備、適正な業務配分等。
- ・正直なところ、ルーチン業務が少なくなかなか難しい。ルーチン業務の多い部署にやる気のある職員を集めて一気に改善していけるといいのかもしれない。
- ・すべてを参考にして、出来ることは前向きに取り組めれば良いと思います。
- ・ピンポイントで同じ取組が実施できるかどうかは検討の余地があるところであるが、様々な取組を参考にさせていただき、自部署になじむ取組を実施したいと考える。

設問8 その他、全体を通してご意見等がありましたら、教えてください。

- どのグループも発表がよく整理されていてわかりやすかった。
- 財務部報告中の「PCスキルについての勉強会のニーズは多くの部局にある」という意見についてはとても同意します。
- 事例報告の内、学生支援課の資格取得について→人材育成の観点からも人事課と協力し資格取得ができる研修も企画していただくと良いと感じた。例えば、MOS や実務法務検定などが公費で出していただけるなら取得したいと思う人はいると考えるため。支援課での報告であがっていた CDA (キャリアディベロップメントアドバイザー) については職員の専門性を高めるために職員全員が取得するよう理事長の命令があった大学もあるようです。
- 良い取り組みを紹介するのは良いと思いますが、表彰、予算を配るといったことはしなくて良いと思います。本来、業務改善は、義務であるべきだと思うので、逆に業務改善しない部局から予算を吸い上げるくらいのことをして良いと思います。
- 大量に提出される取組を整理・評価される御担当のご苦勞に敬意を表します。将来は、業務改善が「常時意識し実行する当たり前のこと」になってほしいです。そのためには、もっと小さなインセンティブも必要かと思います。
- 職員だけでなく、教員への周知や理解が深まれば、もっと改善できることがたくさんあるので、今後の発展に期待したい。
- 非常に有意義な報告会であったが、参加者が少ないのが残念である。教員のニーズを反映した取組ができれば更に良くなると思う。
- 他大学の業務改善の事例などと比べて、全体的に取組みのレベルが低い印象。各部署での取り組みから全学的な取り組みへ発展させようという意識が薄いのが残念。
- 業務改善はすばらしいことだが、実際の業務負担が多く、業務改善も負担となっている。業務改善を実施したという実績を挙げるために業務改善を実施している気持ちになる。
- 効果として「業務の簡素化」が挙げられていたが、効果の度合い(時間外勤務が○時間削減, 時間外勤務手当○円削減等)を算出いただき、コストに対する効果を示していただければよかったです。
- 業務の効率を図ろうと試みても、変化を嫌がる先輩職員に叱責されてひるんでしまったことが多々ある。従来のやり方を大事にする、変えられないというマインド事体から変えていく必要があると思います。
- 業務上の改善の工夫は大変役立ちます。しかし、異動時の引継ぎを円滑に行うように、引継書等を整備するように指示されていると思うが、引継書等の未整備が多いと思う。異動してきてから直近の業務で聞いていない事項を担当部局から催促されることもあり、また、調べるのに相当時間がかかり大変非効率である。引継書は、基本であるので、徹底していただきたいです。
- 事前の配付資料を拝見し、特に聞いてみたいと思う取り組みがなかったため参加しなかった。今は、業務改善項目を求められているから設定しているだけ、という感じがする部署はまだ多いと思う。報告会を聞いた職員が自部署に何かフィードバックしたり、もっと部署全体で業務改善を盛り上げていけるような雰囲気づくりができれば良いと思う。
- 普段、閉ざされた部局の中での業務に終始しがちであるため、色々な取組を紹介いただく機会は重要と考える。今後も引き続き、本報告会の開催をお願いしたい。
- 全ての職員が業務改善に前向きではないとしても(そういう事実を確認したわけではありませんが)、こういった場で率先して業務改善に取り組んでいる人たちが居ることを学内に示すことは、とても意義のあることだと思います。これからの取組にも期待しています。
- 業務改善というものは完成というものはなく、息長く地道にこつこつと少しずつ取り組んでいくものなのかなと思います。プロジェクトチームを核に、若手職員を中心に、働き易い職場環境づくりに邁進して欲しいと思います。チームでは、事務組織改革といった視点での検討、取り組みも意識して欲しいと思います。
- 構成員が日常業務の中で改善できることを、大なり小なり継続して実行できるようにしていきたい。リスク管理、コスト意識をもってワークライフバランスを考慮しつつ、勤務時間内にいい仕事ができるよう取り組んでいきたい。業務改善活動を通して信大として一歩一歩前進し、大学としてのワンランクアップに繋がるような方向性で取り組んでいきたいと思った。「事務組織・業務改善見直しPJ Tの皆様、リード役ありがとうございます。」
- 業務改善チームの皆さんにおかれましては、ご苦勞さまで。
- 経営企画部の皆様御苦勞様でした。
- 今回、音声・画像の調子があまりよくなく、ハウリングするかと思えば、まったく聞こえなかったりで気持ちが悪かったです。もう長いことTV会議システムを使っているのですから、もう少し上手にセッティング・進行ができないもののでしょうか。ご検討いただければ幸いです。
- 申し訳ありません。メールで参加依頼が来ていましたが1回出席して次欠席してしまい参加しづらくなり参加しませんでした。仕事柄なかなか共通点見いだせず困っています。改善提案の項目によっては私に出来ることがあると思いますが。